

取 扱 注 意*

記 事	
在 京	6
1953.1.22.	

国際理論物理学会議組織委員会
在京委員会（第6回）会合記事

日 時：昭和27年1月22日午後5時～8時
場 所：日本学術会議会員控室
出席者：藤岡、茅、小谷、武藤、佐藤、山内、岡野、
本田各委員
（事務局、竹下、吉田、肥後、山越）

議 題：

1. 文部省関係予算に関する報告
2. 新聞社との連絡
3. 予稿に組み入れるべき論文の公募
4. 来日科学者の講演会について
5. *Kandau* の招請に関して、ソ連代表部に先方との連絡を依頼すること
6. 組織委員会専任幹事候補者
7. 旅行各コースの検討
8. 外国との往復通信に関する報告ならびに関連事項の協議

* この資料には新聞社との交渉その他、早期に委員外に広く知れると非常に不都合な事項も含まれておりますから、この記事の内容について外部への御発表は、その時期等について十分慎重をお願いします。

c163-012-008-12

記事
在京 6

1. 文部省関係予算に関する報告

岡野委員から大要次の通り報告

- (1) 国立大学関係教官の旅費として 1,741,000円
- (2) レセプション経費として太平洋問題調査会関係と併せて 30 ~ 35万円
- (3) この他湯川記念館総予算は 500万円
(専任教員 2人分を含む)

以上の通り内示があった。レセプション経費は本国際会議分として 15万円位減る見込である。

2. 新聞社との連絡

藤岡委員長から大要次の通り報告。

- (1) 読売新聞から同社として立てるべき計画について相談があったから、Rabi と 湯川教授の講演会を開催することをすゝめておいた。
- (2) 中部日本新聞社に対しては、朝日が名古屋講演会の計画をやめたので、適当な講演会を開かせたい。これを名古屋の関係者に連絡する。

3. 予稿に組み入れるべき論文の公募

小谷委員から提案。

予稿は国内の最近の仕事を紹介する意味で代表的な優れた論文の要約を編集して参加者に予め配布するものである。

これに組み入れるべき論文の選択は一応専門部会に一任されているが、専門委員が既発表の論文の中から選択する他に、公募の途も開くという提案の理由としては、

- (1) 専門部会の選択に漏れの生ずることを防ぐ。
- (2) 全国理論物理学者が「自分達の会議」として、積極的に参

(2)

参加する気持ちを盛り上げるセステュアとなる。

以上に対する論議として、次のような点が指摘された。

- (1) 専門委員が応募論文の取捨選択の仕事に追われて、本来の研究や仕事に犠牲にならないか。
- (2) 応募しては取り上げられなかった寄稿者の気持ちを考え、又、格別熱心に掲載を希望する応募者を専門部会が断る苦勞を想像すると、公募の功罪は相半すると考えられる。
- (3) 専門委員は、Journal, Progress, 物性論研究の3誌を通閲すれば、取り立てるべき論文を見逃すことは先ずないと見てよい。
- (4) 希望者は5月の物理学会の席を利用して該当論文を発表することにし、専門委員がこれを聴いて審査するの为一案である。

結論としては、上の(4)の考え方を取り入れ、「5月の学会の発表論文の中からは国際会議の予稿に組み入れるに適當なものがあれば取り上げるから奮って発表するように」との主旨を日本物理学会の会告として会員に奨めることが適當であるという意見に一致した。

4. 末日科学者の講演会について

1. Vallarta に対する講演会の希望

このことについて科研の宮崎友喜雄氏が名大の因戸弥太郎教授と協議の上申出があった旨、小谷委員から報告。

協議の結果、講演希望は、原則として一応この種の希望をまとめて一覧表を作り、一人に対し余り重って各方面からの希望が集中しないよう調整してから、在京委員会で認めたい

(3)

記事
在京 6

のに限って話を進めるように仕向ける必要があるが *Vallarta* の場合は重複のおそれがないから、一応こゝで認めることにし、先方への連絡は宮崎氏又は岡戸氏が直接取るようにし、その文書に藤岡委員長から「この企ては組織委員会で正式に認めるものである」旨の添手紙を入れることに決定。

(2) *Fleury* に対する講演依頼。

Fleury は光字が専門であるので、来日の機会に、光学関係の会社の世話で講演会を催すことを考えている旨藤岡委員長から報告。

5. *Landau* の招請に関してソ連代表部に先方との連絡を依頼すること。

東大 服部 学 助手から小谷委員に対してこのような提案があった旨、同委員から報告

これに対しては、既に *Fleury* IUPAP 事務総長に対し、*Landau* に連絡を取ってもらうよう依頼がなされていることでもあるので *Fleury* から回答があるまで待つて次の手段を考えるのが順序であるという意見に一致、服部氏に対しては以上の決定を伝えることを了承。

6. 組織委員会専任幹事候補者

適任と思われる人について、東京教育大学長から藤岡委員長に話があった旨、同委員長から報告。

経厂その他本人の事情についても報告されたが、適任と思われることが認められ、藤岡委員長に話を進めることを一任とすることを決定。

7. 旅行各コースの検討

(

記事
在京 5

 の3頁、項目2参照)

小谷原案に基づいて交通公社の立案した旅行計画(抜率は当日配布資料

在京 6

) は更に小谷委員・事務局・交通公社が再検討することを了承。(付録参照)

なお 乗鞍観測所見学は同観測所の工事進捗状況・往復の道路の状態等の点からコースから除外した方がよいとの意見が強かった。又広島は竹原上陸を取止めて、広大水産学部のランチで理論物理研究所を沖から眺める方がよいとの意見が出た。

各旅行レポートの計画が大体まとまったところで、講演に関する国内からの申込の状況等の通知を併せて各参加者に *circular* として発送することになる。

8. 外国との往復通信に関する報告ならびに関連事項の協議

(1) 通信に関する報告については

外信 3

 参照。

(2) 協議

あ) *Lery* に対しては、往復旅費に対する補助金に余裕のない旨回答することを決定。

い) 招請者の追加

a. *Massey* (ロンドン大学)

一昨年の IUPAP 総会の席上、日本でこの国際会議を催すことに対して賛成を表明している。

b. *Proca* (パリ)

非公式であるが *Massey* と同様、日本の提案を支持した。又、湯川委員から推せんされている。

記事付録

在京 6

C. Pais (プリンストン研究所)

同研究所で日本の理論物理学者が何名も世話になっている。湯川委員から Proca と同様推せんされている。

以上3名に対し、滞日費用負担で儀礼的招請状を出すべきである旨提議があり、一応寄附の見通しがついてからの考えも出たが、時期的に余りおそくなっても礼を欠くことになるので、招請を考慮することに決定。

理論物理学国際会議旅行コース
に関する交通公社との打合

日時：1月23日 9.30 ~ 12.00

場所：日本交通公社本社 外国部長室

参加者：小谷委員・吉本交通公社外国部長
(事務局、吉田・肥後)

記事 (在京 6 参照)

特に問題になった点を挙げると次の通り。

1. 全般的事項

- あ、東京—京都の本会議日程は一応各地方旅行コースと切り離して考え、切符も京都で打ち切って、地方旅行は別の切符を発行することにする。
- い、乗車券・旅館券を組合わせたクーポンを始めから各参加者に渡すのがよい。自費参加に対しては同じものを有料で渡せばよい。
- う、国鉄の割引については、団体割引は利くが、その他の特別割引は台湾国際会議の場合等も実現せず前例がない。
- え、クーポン、特別な荷札、バッヂ等の費用は2-3万円かかるが、バッヂはバス乗車等の場合、整理の都合上是非使用しないと、便乗者の殺到で整理がつかなくなる。

記事付録	
在京	6

- お、自費参加者に対しては、希望に応じて数種の格のホテルの選択をさせるのが一番よいし、外国における会議の例になっているが、今度の場合は
- (1) 使用可能のホテルの種類が少く、それ程宿泊費の差がつけられないこと
 - (2) 案内の都合上、三々五々に分散宿泊されては整理がつかない
- 等の理由で自費参加に対しても特殊事情を了解してもらって、指定したホテルに入れるようにするべきである。
- か、参加者に対する、旅行コースの選択等に関する向合は2月中旬に発送、4月末の回答締切とするのがよい。
- き、地方旅行で講演者に対する旅費負担はクーポンを渡すときに割引の形式で払戻すようにすればよい。
- く、ホテルの予約はなるべく早くからした方がよい。吉本部長が近日中に京都に出張するので、その折に都・京都両ホテルに話をしておく。人数の見込として、一応50-60名とし、全部シングル・ルームの確保に努力する。
- け、東京—京都コースは日本人同伴者迄70名と一応考えて計画するが、これについては、日本人同伴者の数に関して組織委員会の態度の最終的決定を必要とする。

2. 東京—京都コース

- あ、日程の繰り上げが決定すれば、東京発は16日午前となり、日程が楽になる。
- い、箱根までをバスの代りに国鉄湘南電車を利用すると節約になる。

(8)

- う、途中の一泊はフジヤホテルが解除にならない限り箱根泊は無理であり、一方、東京発が午前に乗り上げれば熱海まで降りることは乗である。
- え、その日京都市内見物の見物案の細目は京都側の準備委員会に任せる。
- お、大阪を本会議の一部と考える場合は旅行日程を組み替える必要がある。この場合大阪で何を行事とするか。在京委員会で考える必要がある。

2. A コース (広島・九州)

広島は竹原上陸をやめて、広大水産学部のランチで理論物理学研究所を沖から眺めることにすること。原爆災害調査研究所を見学先に加えること。

3. B コース (乗鞍・甲府)

乗鞍視測所はコースから除外し、(記事在京6 項目参照)、三重県志摩の御木本真珠養殖所を加えて、大阪—志摩—長良川—上高地—甲府—東京のコースを提案として、参加人数5人として企画すること。(二月中旬に交通公社で企画する。)

4. C コース (東北、北海道)

大阪をコースに入れると、大阪—東京を夜行、翌朝直ちに上野発に乗車することとなり、相当無理である。この班に限って大阪を省略するか、日程を一日ずつずらして終了日を延ばすか、先に行って決定してもよい。又9月迄には夕方おそく大阪発の航空便が出来るかも知れない。

(9)